

志摩スペイン村で働く



Esta' muy bveno  
~とてもおいしい~



パルケイスパニャ  
ホテル 志摩スペイン村



ピザの下準備。岩崎さんはじめスタッフと手分けして作業する



(上)ピザ・ラ・ロハの皆さん (右)店の前は、村のメイン通り(エスパーニャ通り)  
株式会社志摩スペイン村 〒517-0292 三重県志摩市磯部町坂崎  
TEL 0599-57-3325 FAX 0599-57-3323

聴器と口話で仕事を進めていく。  
 (株)志摩スペイン村で働く人は三五〇人。働く障害者は、知的、聴覚、視覚に障害がある人が各一名、下肢に障害がある人が二名の五名が活躍している。今後さらなる障害者雇用が期待され、誰もが楽しめるテーマパークの発展を願って取材を終えた。

「愛ちゃん、ミックス二つ」「ミックス二つですわ」と復唱して、冷蔵庫から準備したピザ生地を取り出し釜に入れる。次々に注文が入り、忙しく対応する岩崎さん。  
 「仕事を覚えるのは早かったです。おとなしくて人見知りする方なので、緊張で笑顔が消えたときは心配しました。母親役のな人がいたことと、職場の人たちが親切で協力的だったので、一年後には笑顔で対応できるようになりました。いまは重要なスタッフとして頑張ってくれています」と話す業務遂行援助者で、岩崎さんを入社以来指導してきた中村亜希子チーフ。

テーマパークであるバルケエスパーニャでは、それぞれの働く場に合わせてコスチューム等が決められ、用意されている。その貸し出し業務をしているのが、聴覚障害の磯和俊吾さんだ。ろう学校の高等部を卒業、入社して五年になる。磯和さんは、両耳につけた補聴器と口話で仕事を進めていく。

岩崎さんは、平成一四年、二週間の実習を経て入社、今年で三年目になる。毎日、朝九時三〇分に出勤し、一〇時のオープンに間に合うように準備を始める。昼前後が一番忙しい時間だ。

スペイン気分いっぱいテーマパーク「バルケエスパーニャ」(志摩スペイン村)。「家が近くでしたから、子供のころから何度も来ていました。いつのころからか、このスペイン村で働きたいと思っていました。だから、いま毎日がとても楽しい」と笑顔で話す、岩崎愛さん(二三歳)。



パルケイスタニア  
 観光温泉スペイン村

中村亜希子チーフ（写真右）の指示で作業を進める岩崎さん

「ハイ。ご注文のピザ、できあがりました」



お客様の注文したピザをデコレーションして焼きがまに入れる





“ワードローブ”と呼ばれる職員のためのコスチュームや衣服等の貸し出し業務をする磯和俊吾さん



簡単な修理もする。クリーニングされた衣服を決まった棚に入庫する



テーマパークにはさまざまな職種があり、定められた服装で働いている。それを管理するのが磯和さんの仕事



職員用売店の対応も仕事だ